

## Podcast:#24 アダムはどうすれば良かったのか - 2020/05/08

聖書人になりたい、カンノカズヒコとひろみです。リスナーさんから質問を頂きました。「創世記を初めから読んでいて、アダムが取って食べてはならない木の実を取って食べた。これが罪の初めて、その罪を取り扱うためにメサイアが来るという話は分かった。アダムはどうすればよかったんですか？」確かにその質問は私もずいぶん前に思いました。園の中央にあった2つの木だけに名前がついていました。1つは善悪の知識の木、もう1つはいのちの木でした。その2つの木の片方だけが食べちゃいけない、わざわざ食べちゃいけない木を目の前に置いて何をしているのだろう、何を神様は試みているのか、試しているのか。

ソロモンのストーリーを見ると、どうすれば良かったのかがわかります。ソロモンはダビデから王権を相続してイスラエルを治めることになりました。夢で神様が現れ、「あなたに何を与えようか 願え」とおっしゃった。「何を与えようか願え」というのは王様が言う言い方ですね。欲しいものは何でもやるということと言われた時に、ソロモンは「あまりにも多い民を治めるために善悪をさばく知恵を下さい」と頼んだ。それでその願いは神様が喜んで聞いてくださった。「あなたは自分のために長寿を願わず、自分のために富を願わず、あなたの敵の命を願わず、むしろ自分のために正しい訴えを聞き分ける判断力を願ったので、まず最初に善悪の知識を求めた。善悪を裁く知恵を求めたので、願わなかったもの、富と誉れもあなたに与える。あなたの日々を長くしよう。」と。いのちの祝福も与えられましたね。ソロモンは何を求めべきなのかを知っていた。ダビデが教えてくれた。「あなたは主のおきてと主の命令を守って主の道に歩みなさい。そうすれば栄えるからだ。」まず知恵を求めた。そしていのちが与えられたという順番ですよ。

アダムの時に2つの木があって、1つはいのちの木、そしてもう1つは死の木ではなかった。2つの木が真ん中にある、いのちと死があってどちらを選びますか、いのちを選ぶというテストではなかった。2つありましたけど、順番があったと思います。まず善悪を知る木、そのテストに合格したら、いのちの木。善悪の知識の木、これは取って食べて知る木ではない、食べないことによって知恵を得る。主を恐れること、これが知恵なんだ。取らない、食べないことによって知る木だということを。そういう意味ではテストですから、ちょっとひねられるかもしれませんが。アダムはすぐわかるはずですよ。主を恐れている人にはわかる。その命令を信じて守る、これがいのちへの道だと悟っていのちの木の实をエバと一緒に食べるはずだった。それがアダムがすべきことだった。

主イエスがバプテスマを受けて、「わたしの愛する子」と宣言されたすぐ後にサタンの誘惑があります。そして四十日四十夜だからお腹が空きました。最初に来た言葉が「あなたか神の子なら、これらの石がパンになるよう命じなさい」。食べ物の話です。取って食べなさいと言われていた。それでイエスは答えた。「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」と答える。そしてヘビとの戦いに勝って、サタンは引き下がっていく。善悪を知る、その知恵は何のためなのかと言うと、家の土台、国の土台、都の土台。ソロモンは国を建てようという時に、この善と悪を裁く知恵、善人と悪人を裁く知恵なんですよ。善というもの、悪というものがあるんじゃないかと、善人と悪人を裁く、この裁きをするのが王様の責任。それはシェバの女王も見て、ソロモンの所に来たシェバの女王も見てわかっている。「主はイスラエルを愛しているので、王様を選んで公正と公義を行わせる」。主の道を歩んで公義と公正を行わせる。アブラハムですよ。アブラハムを選んだ理由はそれだということは創世記に書いてある通りです。

エジプトを出た時にモーセが幕屋を作るようにリーダーを立てました。ベツアルエルですね。知恵の霊に満たされて幕屋を作ります。幕屋を建てている、家を建てている。箴言に出てくる知恵も擬人化されています。知恵は家を建てますよね。知恵は自分の家を建て、その7つの柱を立て、家は知恵によって建てられ、悟りによって堅くさせられる。家とか国とか都、こういう物の土台が知恵だ。善人悪人、善悪が正しく裁かれているなら、その家は堅く建てられてそして繁栄する。教会は神様の家ですので、教会も同じように知恵の上に建てるものである。

パウロは自分に与えられた神の恵みによって「賢い建築家のように土台を据えました」って言っています。パウロが土台を据えたその家の礎石はキリスト。本当の知恵のある新しいソロモンがこの家を建てている。自分のいのちを捧げて、それで永遠のいのちが与えられた。みことばに生きる聖書人が生まれ増えていきますように。

カンノカズヒコ、ひろみでした。